

英 語

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
2	東京書籍	東 書◆	英語 701・801・901	A4 502	令和2年
9	開隆堂出版	開隆堂◆	英語 702・802・902	AB 508	
15	三省堂	三省堂◆	英語 703・803・903	AB 550	
17	教育出版	教 出◆	英語 704・804・904	AB 532	
38	光村図書	光 村◆	英語 705・805・905	AB 570	
61	新興出版社 啓林館	啓林館◆	英語 706・806・906	AB 474	

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

都立 白鷗高等学校附属中学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	☆☆	9 ☆	7 ☆	8 ☆☆	9 ☆☆	9 ☆☆☆	12
	SDGsを扱っている教材数	☆☆☆☆	13 ☆☆☆	11 ☆	6 ☆☆	8 ☆☆☆	10 ☆☆	8
	自然・科学、環境を扱っている教材数	☆☆☆	6 ☆☆☆☆	7 ☆	3 ☆☆☆☆	7 ☆	4 ☆☆☆☆	7
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫 (単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるよ』になったこと」リストにより、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫 (小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 小石川中等教育学校 英語 採択資料

発行者の番号 略 称		2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆	1 ☆	2 ☆☆☆☆	5 ☆	1 ☆☆☆	4 ☆	2
	自然・科学、環境を扱っている教材数	☆☆☆	6 ☆☆☆☆	7 ☆	3 ☆☆☆☆	7 ☆	4 ☆☆☆☆	7
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆☆☆☆	6 ☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88	
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるようにしたこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 両国高等学校附属中学校 英語 採択資料

発行者の番号 略 称		2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆	1 ☆	2 ☆☆☆☆	5 ☆	1 ☆☆☆	4 ☆	2
	自然・科学、環境を扱っている教材数	☆☆☆	6 ☆☆☆☆	7 ☆	3 ☆☆☆☆	7 ☆	4 ☆☆☆☆	7
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆☆☆☆	6 ☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88	
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるようにしたこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 桜修館中等教育学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	☆☆	9 ☆	7 ☆	8 ☆☆	9 ☆☆	9 ☆☆☆	12
	SDGsを扱っている教材数	☆☆☆☆	13 ☆☆☆	11 ☆	6 ☆☆	8 ☆☆☆	10 ☆☆	8
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆☆☆☆	6 ☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるようになったこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 立川国際中等教育学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内容	SDGsを扱っている教材数	☆☆☆☆ 13	☆☆☆ 11	☆	6 ☆☆	8 ☆☆☆	10 ☆☆	8
	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆ 1	☆	☆☆☆☆ 2	☆	☆☆☆ 1	☆	2
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆ 4	☆☆ 3	☆☆☆☆ 3	☆☆☆ 6	☆☆ 4	☆ 3	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆ 84	☆☆ 112	☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆ 117	☆ 44	☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆ 80	☆☆☆☆ 124	☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆ 86	☆ 25	☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
容	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆ 130	☆☆☆ 100	☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆ 28	☆ 9	☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10
構成上の工夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるよになったこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 武蔵高等学校附属中学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内容	SDGsを扱っている教材数	☆☆☆☆ 13	☆☆☆ 11	☆	6 ☆☆	8 ☆☆☆	10 ☆☆	8
	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆ 1	☆	2 ☆☆☆	5 ☆	1 ☆☆☆	4 ☆	2
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆ 4	☆☆	3 ☆☆☆	6 ☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆ 84	☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆ 117	☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆ 80	☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆ 86	☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
構成上の工夫	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆ 130	☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88
	複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆ 28	☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10
	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるよになったこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
	参考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
		オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

都立 富士高等学校附属中学校 英語 採択資料

発行者の番号 略 称		2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆	1 ☆	2 ☆☆☆☆	5 ☆	1 ☆☆☆	4 ☆	2
	自然・科学、環境を扱っている教材数	☆☆☆	6 ☆☆☆☆	7 ☆	3 ☆☆☆☆	7 ☆	4 ☆☆☆☆	7
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆☆☆☆	6 ☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88	
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主體的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるようにしたこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 大泉高等学校附属中学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	☆☆	9 ☆	7 ☆	8 ☆☆	9 ☆☆	9 ☆☆☆
	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆	1 ☆	2 ☆☆☆	5 ☆	1 ☆☆☆	4 ☆
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆☆☆	6 ☆☆☆	4 ☆☆	3 ☆
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆	205 ☆
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆
「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるよになったこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり

都立 南多摩中等教育学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	SDGsを扱っている教材数	☆☆☆☆	13☆☆☆	11☆☆☆	6☆☆	8☆☆☆	10☆☆	8
	自然・科学、環境を扱っている教材数	☆☆☆	6☆☆☆☆	7☆☆	3☆☆☆☆	7☆☆	4☆☆☆☆	7
	ディスカッションやディベートについて記述してある教材数	☆☆☆	4☆☆	3☆☆☆☆	6☆☆☆	4☆☆	3☆☆	1
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84☆☆	112☆☆	72☆☆	134☆☆☆☆	205☆☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117☆☆	44☆☆	42☆☆☆☆	160☆☆☆	103☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80☆☆☆☆	124☆☆	53☆☆	37☆☆☆	98☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86☆☆	25☆☆	29☆☆	42☆☆	33☆☆☆☆	100
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130☆☆☆	100☆☆	60☆☆	39☆☆☆	86☆☆☆	88
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28☆☆	9☆☆	9☆☆	8☆☆	9☆☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主體的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるようにしたこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

都立 三鷹中等教育学校 英語 採択資料

	発行者の番号 略 称	2 東書	9 開隆堂	15 三省堂	17 教出	38 光村	61 啓林館	
内 容	日本の文化・伝統を扱っている教材数	☆☆	9 ☆	7 ☆	8 ☆☆	9 ☆☆	9 ☆☆☆	12
	SDGsを扱っている教材数	☆☆☆☆	13 ☆☆☆	11 ☆	6 ☆☆	8 ☆☆☆	10 ☆☆	8
	インターネットを利用した海外の機関や学校との交流活動について記述してある教材数	☆	1 ☆	2 ☆☆☆☆	5 ☆	1 ☆☆☆	4 ☆	2
	「聞くこと」に焦点を当てた活動の数	☆	84 ☆☆	112 ☆	72 ☆☆	134 ☆☆☆☆	205 ☆	100
	「読むこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆	117 ☆	44 ☆	42 ☆☆☆☆	160 ☆☆☆	103 ☆☆	95
	「話すこと[やり取り]」に焦点を当てた活動の数	☆☆	80 ☆☆☆☆	124 ☆	53 ☆	37 ☆☆☆	98 ☆☆☆☆	120
	「話すこと[発表]」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	86 ☆	25 ☆	29 ☆	42 ☆	33 ☆☆☆☆	100
	「書くこと」に焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	130 ☆☆☆	100 ☆	60 ☆	39 ☆☆☆	86 ☆☆☆	88
複数の領域を統合したものに焦点を当てた活動の数	☆☆☆☆	28 ☆	9 ☆	9 ☆	8 ☆	9 ☆	10	
構 成 上 の 工 夫	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫(単元構成上の工夫等)	・各単元冒頭での到達点(GOAL)の提示、単元末での「Unit Activity」の設定、学期末を想定した「Stage Activity」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「CHECK」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DOリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標(Goal)の提示、単元末の自己表現活動に向けた各種活動の配置、複数単元学習後の「Our Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・「Our Project」の「Go!」のパートに設定された振り返りの活動や、巻末の「英語で『できるようになったこと』リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元において、「GET」(習得)パートから「USE」(活用)パートへとつながるよう構成するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・巻末の「What Can I Do?」(CAN-DOリスト)により、生徒が学習の達成状況を把握できるよう工夫している。	・各単元において、基礎的・基本的な知識や技能の習得から活用へと各活動を配置するとともに、複数単元学習後の「Project」(複数の領域を統合した活動)に向けて各単元を配置するよう工夫している。 ・各単元末の「Grammar」に設定された「Lesson〇をふり返ろう」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「Can-Do 自己チェックリスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での具体的な目標(Goal)の提示、単元末での「Goal」の活動の設定、複数単元学習後の「You Can Do It!」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・各単元末の「ふり返り」(振り返りの視点を示したもの)、巻末の「CAN-DO List」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	・各単元冒頭での目標の提示、単元末での「Express Yourself」(自己表現活動)の設定、学期末を想定した「Project」(複数の領域を統合した活動)の設定等により、生徒が見通しをもって学習を進められるよう工夫している。 ・巻末の「Can-Do リスト」により、生徒が学習の達成状況を振り返り、把握できるよう工夫している。	
	小学校外国語科との円滑な接続のための工夫(小学校で学習した語彙や表現の扱い方等)	・第1学年では小・中接続単元を設定(P4-8)するとともに、Unit5までは各パートの導入として「小学校で学習した表現を使う『話すこと』の活動」を設定している。また、小学校で扱われているSmall Talkに取り組むパートを別途設定している。 ・「小学校の単語」の一覧を、各学年の巻末資料として掲載している。また、本文の各パート等においても、この一覧に含まれる語に記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P7-19)において、お互いの好きなことなどについての英語によるやり取りや英語を書き写す活動など、小学校での学習内容を踏まえた活動を設定している。また、巻末に「小学校で学んだ単語」の一覧を掲載している。 ・各学年巻末の「単語と熟語」の一覧には、小学校で学習した語彙が分かるよう、「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-13)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した内容を踏まえた「聞く、話す、読む、書く」の活動を順に設定している。また、巻末付録の「いろいろな単語」の一覧において、「小学校で出会ったもの」については、小学校で学習したことが分かるよう「☆」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P4-9)を設定するとともに、Lesson3までは小学校で学習した語彙や表現、体験した活動などを踏まえて単元を構成している。また、巻末に「小学校で学習したとみなした語」の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で学習したとみなした語」が分かるよう「小」の記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P6-19)において、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定するとともに、Unit3までは本文を漫画のセリフ形式にするなど、生徒が徐々に文字に慣れていくよう構成している。また、巻末に小・中接続単元の新出語の一覧を掲載している。 ・各学年の「Word List」には「小学校で習った語」が分かるよう記号を付けている。	・第1学年では小・中接続単元(P8-21)において、アルファベットを読み書きしたり、「小学校の思い出」や「中学校でしたいこと」についてやり取りしたりするなど、小学校で学習した語彙や表現を踏まえた活動を設定している。	
参 考	防災や自然災害の扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	
	オリンピック・パラリンピックの扱い	あり	あり	あり	あり	あり	あり	

